講演「イノベーション創出に向けて　-　シリコンバレーからのメッセージ」

報告

日本経済大学　鈴木　浩

　2015年1月21日午後、雪がちらつく中、国立科学博物館大会議室において、講演が行われた。会場ほぼいっぱいの34名の参加者で熱気にあふれていた。

はじめに司会（筆者）より、根本的エンジニアリング普及啓発プロジェクトの紹介を行った。本プロジェクトの目指しているイノベーション創出に向けた取り組みを米国で行っている講師をお呼びしたことを説明した。

講師は、(株)ゼクセル代表の鈴木則久氏で、カーネギーメロン大学、東京大学で教鞭をとった後、初代日本IBM東京基礎研究所所長を務め、現在は、米国シリコンバレーを基盤としてデジタルシネマ向けのソフトウエアビジネスを行っている。

最初に、わずか４kバイトのメモリーの中にソフトを収めるのに苦労をしたソフトウエア開発の初期の時代から、現在の計算機の高機能の時代までをコンピュータの発展とともに振り返った。

シリコンバレーにおけるPCやインターネットなどのイノベーションの源泉となったPARC(パロアルト研究センター)での研究開発の成果を、東海岸の雄であったIBMと対比して紹介した。講師のPARCでの研究経験から、スティーブ・ジョブズやビル・ゲイツはイノベーターいうよりはマーケターというのが正しいと述べた。

シリコンバレーのカルチャーでは、会社への忠誠心よりもボスへの忠誠心が強いために、チームで移動して新しいビジネスを立ち上げることが日常茶飯である。

イノベーションについてシリコンバレーと、当初東海岸の中心であったルート128を対比させる形で、特徴を示した。西海岸は、ある分野での幅広いネットワークが機能し、東海岸では、会社内のネットワークが中心となっていた。

わが国のイノベーション創出への示唆として、若い人に良い仕事とは何か、悪い仕事とは何かを教えること、アイデアが回る仕組みを作ること、国としてはイノベーションを表彰することが必要であると述べられた。

講演の後、会場から多くの質問が寄せられ、予定時間を越えて議論が行われた。